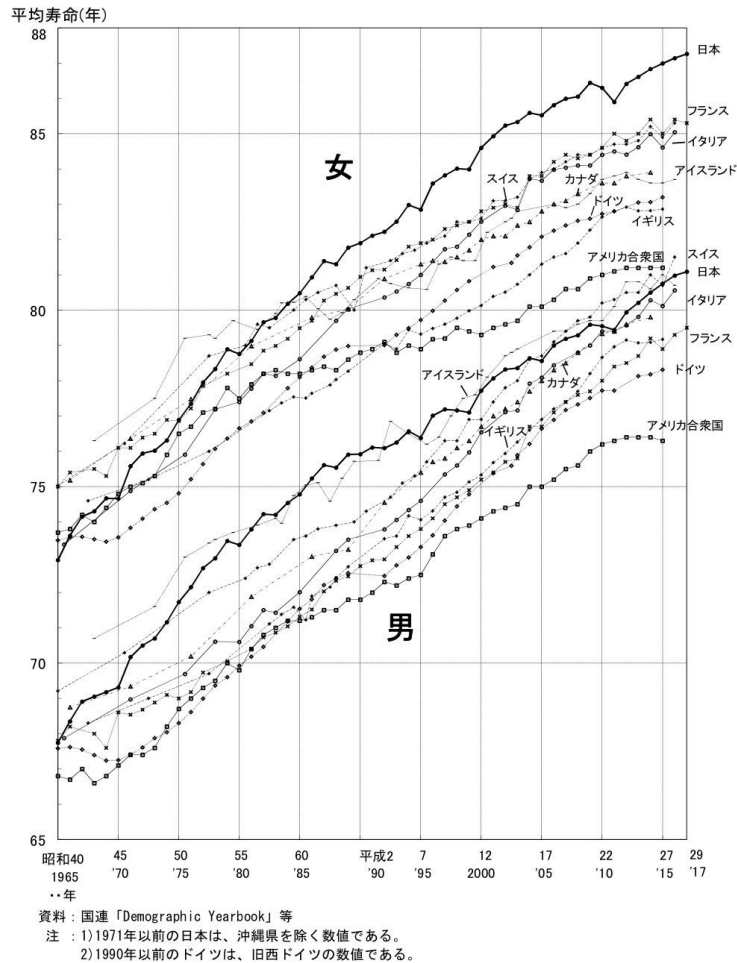


主な国の平均寿命の年次推移が示唆する健康寿命を延ばす 高齢者と子どもの世代間交流事業の研究の余地



出所：厚生労働省政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室(2018)「平成 29 年簡易生命表の概況」p.5
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life18/dl/life18-04.pdf>)

その良し悪しは別として、厚生労働省によると、2018年現在の日本人の平均寿命は、女性が87.32歳、男性が81.25歳で、ともに過去最高を更新した。前年比で、女性は0.05歳、男性は0.16歳延びた計算になる。当然、世界的にもトップクラスの平均寿命の高さである。少子化である日本では、高齢者の年金・医療・介護に代表される社会保障サービスの費用を現在の若者(=将来必ず高齢者になるのだが)が負担することについて、一層の少子化を助長するのではないかとの懸念が大きい。

次に、死因についてである。2018年の死因別死亡確率を見ると、0歳では男女ともに「腫瘍(癌)」が最高で、次いで、男では「心疾患」、「肺炎」、「脳血管疾患」、女では「心疾患」、「脳血管疾患」、「肺炎」の順。65歳では男女ともに0歳に比べ「腫瘍」の死亡確率が低く、他の3死因の死亡確率が高くなっており、75歳では更にこの傾向が強くなっている。90歳では男女とも「脳血管疾患」の死亡確率が75歳より低くなっている。日本人の3大死因である癌、心疾患、脳血管疾患による死亡率の低下が、平均寿命を延ばしていると言えるだろう。また、昨今の健康意

識の高まりもあって、寿命が更に延びる可能性があるとの見解も厚生労働省は出している。

高齢期の“Quality Of Life”(QOL)を向上させるためには、健康寿命を延ばし平均寿命の差を小さくする努力が必要である。「健康寿命が長い」ということは、「死ぬ直前まで元気に生活する」ということである。

健康寿命が短いということは、当事者はもちろん、親族など周囲の人たちまでもが QOL の低下に悩まされるだろう。例えば、医療や介護に要する費用が増えてしまうことや、介護のために仕方なく家族が離職することなど、健康寿命が短いことで関連する家計に与える打撃は深刻になることがある。

また健康寿命の短さによる影響はそれだけではなく、しばしば報道される“介護殺人”がもっとも悲惨な事件と言えるだろう。いつ終わるかわからない介護の日々に心身が疲れ切ってしまい、親族介護者が突如として殺人者へと変貌してしまう。

そうならないためにも、可能な限り健康寿命を延ばすビジネスがもっと発展しなければならない。高齢者と子ども世代間交流事業などは、研究の余地が大いに残されている分野だろう。

●当レポートは、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。当レポートのご利用に際しては、ご自身の判断にてお願い申し上げます。また、当レポートは執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。なお、当レポートに記載された内容は予告なしに変更されることもあります。当レポートは著作物であり、著作権法に基づき保護されています。当レポートの全文又は一部を著作権法の定める範囲を超えて無断で複製、翻訳、翻案、出版、販売、貸与、転載することを禁じます。